

# K U M A M O T O A R T P O L I S N E W S

巻頭インタビュー

コミッショナー就任20年を振り返る

## 伊東豊雄インタビュー

Vol. 51  
2026.3



### CONTENTS

#### 新規プロジェクト

御船町中山間地域拠点整備設計  
公募型プロポーザル公開審査

#### シンポジウム

くまもとの木造建築受賞記念シンポジウム  
モク活2025

#### 完成プロジェクト

令和2年7月豪雨 被災した公民館に替わる「みんなの家」  
球磨村のみんなの家

#### 完成プロジェクト

高橋酒造田野蒸溜所・交流施設  
こども建築塾2025・完成見学会

#### 進行中プロジェクト

相良村川辺川魅力創造事業・交流拠点施設

#### TOPICS

# コミッショナー就任20年を振り返る

建築家・くまもとアートポリスコミッショナー

## 伊東豊雄 インタビュー

1988年にくまもとアートポリスがスタートし、2026年で38周年を迎えますが、これまでに完成した100を超える建造物は、国内外から多くの見学者が訪れており、次代を担う人材育成や、県産木材の利活用促進取り組みにも繋がっています。2005年からコミッショナーとして尽力いただいている伊東氏に、アートポリスのこれまでのこと、これからのことをインタビューしました。



2005年の就任後20年間を振り返り、印象に残っていることはありますか。

この20年でいうと何と言っても熊本地震です。東日本大震災復興のために東北に何度も足を運んでいましたが、まさか熊本であのような大きな地震があるとは思っていませんでした。東日本大震災の時に、熊本県が「みんなの家」を助成してくださった経験などもあり、熊本の震災の翌日からアートポリスで

きることをやろうと動き出しました。その活動から生まれた「みんなの家」は、地元の人たちや若い建築家と一緒に推し進めたこともあり、一番大きく記憶に残っています。

震災によって地元建築家の方も参加して下さったり、地元の住民の方からも、アートポリスについて理解を深めていただいた。大変な災害ではありましたが、結果としてアートポリスの本来の意味を考える意味で良い機会となりました。



地域の方々がコミッショナーを囲んで  
(仙台市宮城野区みんなの家)

# アートポリスが日本におけるこれからの建築をつくる1つのモデルに



地元建築家が設計したみんなの家（西原村小森第4みんなの家）

球磨村や人吉市を襲った令和2年7月豪雨での「公民館型みんなの家」も、地域の方々と一緒に作り上げ、KASEIという学生さんたちのプロジェクトによって建設後もフォローされている点が素晴らしいと感じます。



KASEIプロジェクトによる家具コンペティション（球磨村神瀬のみんなの家）

## 「自然に開き、人と和す」のテーマに込めた思いを教えてください。

私自身は東京にいるのですが、東京では現在も大きな再開発が次々に行われており、自然から乖離していています。それともなっていて、人と人とのコミュニケーションが希薄になっていっていることを日々感じています。アートポリスで掲げているテーマ「自然に開き、人と和す」は、10年前にこのテーマを考え、提案したとき以上に、重要なテーマになっていると感じています。特に熊本は、それほど高層化が進んでいるわけでもなく、大変豊かな美しい自然に囲まれていますから、こういうテーマを考える上で、素晴らしい環境だと思います。

「自然に開き、人と和す」は、アートポリスのテーマとしても非常に重要である一方で、私自身にとっても重要なテーマでもあります。再開発が頻繁に行われている東京のような大都市において、自然にどうやって近づき、人と人とのコミュニケーションをより親密なものにしていくことができるか、日々建築に向き合う際に考えています。

アートポリスの初期の頃は、先鋭的、近代的な建築をつくらうという思いが強くありました。そのため、地域住民の方と必ずしも

うまく親密な関係をつくることはできませんでした。私自身も近代主義の建築が飽和状態であり、その次のことを考える新しい時代に来ていると感じ、このテーマを提案しました。そのことによって、住民の人たちともより良い関係をつくり出せるようになりつつあることは、大変ありがたいことだと思っています。



完成式典にてコミッショナーと設計者（熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設）

## アートポリスに対する思いをお聞かせください。

アートポリスが素晴らしい事業であるのは、熊本県や自治体の方々から深い理解があり、フォローして下さることで、私と3名のアドバイザーと良いチームとなってプロジェクトを進められることです。

それから、アートポリスの審査では、毎回、コミッショナーとアドバイザーが審査員となりますが、他のプロポーザルやコンペティションではあり得ないことです。常に同じメンバーで審査をするので、プロジェクトが大事にしていることや審査員の基準や考えがブレません。だからこそ、「われこそは！」と思う若い人たちが応募してくれているのだと思うのです。アートポリスが若い人たちの登竜門として、世に出る一歩となり、これからの建築を考える契機となることへの期待は、ますます大きくなっています。

登竜門と言われるようになったのも、37年にわたり、5代の知事のもとで継承されてきたプロジェクトであることが挙げられます。これは通常では考えられないことであり、大変ありがたいことです。



コミッショナーとアドバイザー、プロポーザル公開審査（熊本県庁）

これからのアートポリスが目指すべき姿、今後についてのお考えをお願いします。

バイスコミッショナー時代にはプロジェクトがなく、アートポリスもこれで終わりに終わらないかというような時期があっただけに、今はとても良い方向に進んでいると思います。今後はさらに住民の人たちが「一緒につくっていこう」という気持ちになってもらえるようなプロジェクトになることを頑張っていきたいと思います。アートポリスが、日本にとってのこれからの建築をつくっていく、ひとつのモデルになるべきだと思います。

熊本は、林業が盛んですので、木材を使った建築、木構造の建築の重要性は今後さらに増していくと考えます。そういう意味で熊本県は一歩進んでいるので、特に木造建築については、さらに進化させていかなくてはと思います。

私自身「これからの建築は「みんなの家」である」と講演会のタイトルにつけたりして発信しています。「みんなの家」が公共建築のモデルとして浸透していけば、素晴らしい建築が次々に生まれていくと私は強く信じています。



地元TV局によるコミッショナーインタビュー（エバーフィールド木材加工場）

建築家・KAPコミッショナー

いとうとよお  
**伊東 豊雄**

### PROFILE

1941年 京城市（現・ソウル市）生まれ  
1965年 東京大学工学部建築学科卒業  
1965年 菊竹清訓建築設計事務所勤務  
1971年 アーバンロボット（URBOT）設立  
1979年 伊東豊雄建築設計事務所に改称

### 【主な作品】

八代市立博物館・未来の森ミュージアム、八代市立養護老人ホーム保寿寮、八代広域消防本部庁舎、せんだいメディアテーク、多摩美術大学図書館、みんなの家 森びふメディアコスモス、台中国家歌劇院、茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

2025.10.11 sat

# 御船町中山間地域拠点整備設計 公募型プロポーザル公開審査

Check!

プロジェクトの  
詳細はこちらを  
チェック

開催場所：御船町カルチャーセンター

審査員長：伊東 豊雄（建築家、くまもとアートポリス(KAP)コミッショナー）

審査員：藤木 正幸（御船町長）

桂 英昭（建築家、KAPアドバイザー）

末廣 香織（建築家、KAPアドバイザー、九州大学教授）

曾我部 昌史（建築家、KAPアドバイザー、神奈川大学教授）

## 事業概要

事業主体：御船町

建設地：御船町七滝社会教育センター敷地  
（旧七滝小学校跡地）

規模：木造、約400平方メートル

## プロポーザルの概要

- ・6月27日 応募要項発表
- ・7月11日、15日 現地見学会
- ・8月25日 応募締切
- ・9月1日 一次審査
- ・10月11日 二次審査(公開審査)



## 中山間地域の活性化につながる、新たな拠点施設へ

御船町では「第6期御船町総合計画」において、中山間地域の活性化推進を掲げ、地域振興に寄与する新たな拠点施設整備を目指している。旧七滝小学校跡地に予定されている拠点施設は、地域住民が日常的に親しみ、町内外の交流拠点、防災拠点としての機能を備える施設を計画。平常時（いつも）と災害時（もしも）に活用できる拠点として、くまもとアートポリス122番目のプロジェクト事業として公募型プロポーザルを実施した。全国から70件の応募があり、一次審査を経て選出された5者の提案の公開審査が御船町カルチャーセンターにて地域住民含む約200人が見守る中、開催された。公開審査の前半では、5者それぞれの提案内容についてプレゼンテーションがあり、個別の質疑応答が実施された。廃校となった小学校の跡地に残る体育館を活かす特殊な条件の下、敷地の高低差や斜面を積極

的に計画に取り込み、建築とランドスケープの一体的な構成、屋外空間そのものを拠点機能の一部として位置づけるなど、テーマである日常利用と災害時対応の両立を実現するための工夫が注目された。さらに踏み込んで、日常的な使われ方、イベント時などの活用方法などを、防災機能と連続的に捉える特徴的な提案も見られた。提案後の全体質疑応答では、維持管理方法、工事費との整合性、災害時の対応、ユニバーサルデザインの確保など、実現を見据えた具体的な質問が飛び交った。

審査員による別室での審査後、審査結果の発表とともに審査員による講評が行われた。応募総数70件という数の中から選ばれた5者の提案はどれも水準が高く、審査は僅差であったことが伊東コミッショナーから伝えられた。実現性、建築とランドスケープの一体感、地域との関係性を重要な評価

軸とし、最優秀に「株式会社宮本佳明建築設計事務所」の提案が選ばれた。計画と施工の実現性の高さや、敷地とまわりの風景との調和、将来的な利用の広がり具体性が評価されたポイント。また、今後の地域との関わり、協議において敷地の緑化計画や維持管理について、検討の余地があると指摘された。全体を通じ、それぞれの提案は独自性があり、評価すべき点があると認められた上で、建築としての完成度だけでなく、長期的に愛され、地域に根付く拠点になり得る計画かどうかの視点が重視された。



### 審査員長



伊東 豊雄

### 審査員



藤木 正幸



桂 英昭



末廣 香織



曾我部 昌史

**最優秀賞** みやもとかつひろ 株式会社宮本佳明建築設計事務所(兵庫県)

既存法面を緩やかに均して多様な居場所と安全な動線を生み出し、造成後の敷地全体と既存体育館の力を最大限に活かして受援力の高い避難所を形成するとともに、平常時の「まちの部活動」を通じて自援力を高め、地形と建築のデザインによって交流と関係人口を育む計画。



**優秀賞** ちもえだゆう 百枝優建築設計+山根製作所設計共同体(福岡県)

緩やかな斜面で体育館とグラウンドの段差を解消し、斜面を持ち上げて形成する屋根によって地形と建築が融合した心地よい場を生み出し、さらに南北の分棟配置によって敷地内の機能を有機的につなぐことで、平時・有事ともに使いやすく一体的に活用できる環境を実現する計画。



**佳作** 株式会社メグロ建築研究所一級建築士事務所(東京都)

多様な世代が健康のために集う地域拠点を整え、平常時から柔軟な運営に慣れることで災害時にも円滑に活用できるようにし、丘の地形と一体となった七つの屋根が地域の心の拠り所となるランドマークを生み出す計画。



**佳作** さい ひま でいっくす SAI・HiMa・DIX設計共同体(大阪府)

中山間地域の特色を活かした交流イベントや林間学校など多様な活動を受け入れ、伸びやかな大屋根の下に柔軟に使える空間を備え、地域内外に開かれた交流を育む施設とする計画。



**佳作** あしざわりゆういち 株式会社芦澤竜一建築設計事務所(大阪府)

既存体育館を空間の核とし、建築ストックを活かして日々の営みと人のつながりを再編し、多様な世代の交流と防災機能を高めながら「今あるもの」で暮らしを支える新たな地域拠点を実現する計画。



受賞者 Comment

株式会社宮本佳明建築設計事務所 宮本 佳明氏



御船町玉虫のみんなの家、御船町甘木のみんなの家の設計を担当しました。それが今でも現役で活躍している姿を見て、今後も災害復興における地域の方たちとの関わりを生かし、さらに対話とワークショップを重ねて長く愛される拠点づくりに取り組んでいきたいと改めて思いを強くしました。

参加者 Comment

熊本工業高校建築科3年  
宮田 旬さん



都市計画の方面の学びを深めるために大学に進学を考えており、まさに今回は自分が目指すことに近かったので見学に来ました。今回の公開審査は、とても勉強になりました。地域と施設がどれだけつながれるか、考えさせられました。

熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科  
5年 江藤 直太郎さん(左)  
5年 田中 文裕さん(中)  
4年 榎田 藍さん(右)



建築を学ぶ中で、普段はどうしてもデザイン重視に偏りがちでしたが、今回のプロポーザル審査を通して、デザインだけでなく、防災やコスト、維持管理まで含めて建築を考える重要性を学ぶことができました。

2025.11.17 wed・12.23 wed  
**住民参加型ワークショップ**

地区住民との意見交換会を2回実施。設計者の宮本氏から設計概要についての説明があり、図面や模型などを使い意見交換が行われた。参加された地域の方々の提案や残してほしいもの、施設の利用の仕方、維持管理の方法などのご意見を踏まえ、現在設計が進められている。



2025.11.22 sat

# くまもとの 木造建築 受賞記念 シンポジウム モク活2025

開催場所：熊本県庁地下大会議室

主催：熊本県(林業振興課、建築課)

施設名[設計者/施工者]：

南阿蘇鉄道高森駅・交流施設  
[ヌーブ 太田 浩史/竹内工務店]

エバーフィールド木材加工場  
[アトリエ・シムサ 小川 次郎/エバーフィールド]

秀岳館高等学校新校舎  
[パオプラン熊本 佐藤 俊輔/建吉組]

そらいろ保育園  
[志垣デザイン店 志垣 孝行/サンワイテック]

立野交流施設(立野駅)  
[ジメント 真道 吉広/吉永産業]

熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設(KIOKU)  
[o+h 百田 有希/橋本建設]

くまもとアートポリスの人材育成事業として、県内の建築関係者と林業関係者が一緒になって県産材の利活用促進のため木造建築物の魅力を発信する「モク活シンポジウム」を2022年から毎年開催している。4回目となる今回は、近年建築関係の受賞が続いている県内の木造建築物の施主、設計者、施工者等とともに受賞をお祝いする「くまもとの木造建築受賞記念シンポジウム」を開催。会場には県内外から木造建築物に関心のある高校生、大学生、建築・林業関係者、行政関係者など約170名が参加し、熱気に包まれた時間となった。

# 熊本から考える新しい

## 第1部 設計者による受賞作品発表



太田 浩史(ヌーブ)



小川 次郎(アトリエ・シムサ)



佐藤 俊輔(パオプラン熊本)



志垣 孝行(志垣デザイン店)



真道 吉広(ジメント)



百田 有希(o+h)

## 木造建築の魅力と 木材活用のポイント

第1部では、受賞木造建築物の設計者が発表を行った。紹介された施設はどれも、県産材を活用するだけでなく、構造的な挑戦、運営や維持管理の課題まで含めた総合的な視点で計画されていた点が特徴的であった。それぞれの建築物は用途は多様であるものの、共通して語られたのは木材の持つ質感や経年変化を肯定的に受け止める姿勢。その施設を利用する人や、積み重ねてきた年月によって刻まれる風合いの変化が価値となるのは、木造ならではの魅力ということが語られた。

設計にあたっては、3Dデータやモック

アップの活用などが、複雑な木造構造を実現する上で有効であったとの話や、設計段階から設計者、施工者、施主などが議論に参加し、細部の納まりや施工方法を検証したことが精度と品質の向上につながったとの話があった。また、木材供給の視点からは、山での伐採から製材、乾燥、加工に至るまでの工程があるため、施工に入る前までの調整がいかに重要かの話があり、計画の早い段階から必要木材量などの情報を共有することで、地域材がより活用されるとの説明があった。設計者による受賞作品の報告から見てきたのは、川上から川下までの連携によって木造建築の質が保たれ、その可能性を広げられるということだった。



# 木造建築の可能性



## 第2部 ディスカッション

### 受賞施設施主・施工者



岩元 政貴 (竹内工務店)



久原 英司 (エパーフィールド)



志垣 豊和 (古永産業)



日田 政己 (建吉組)



橋本 幸典 (橋本建設)



日隈 雄太郎 (そらいろ保育園施主)

### 木材供給事業者・建築関係者



犬童 大輔 (球磨村森林組合)



水間 信介 (熊本県木材協会連合会)



坂田 政孝 (ウッドファーム)



桂 英昭  
(くまもとアートポリスアドバイザー)



原田 展幸 (ライフジャム)

## 熊本の魅力を活かした 新しい木造建築の可能性

第2部では、くまもとアートポリスアドバイザーの桂氏の進行により、第1部の登壇者である設計者に加え、施主、施工者、木材供給者といった多様な立場の参加者によるディスカッションが行われた。当日の会場には、建築の業界を目指す県内の高校生の参加が多くあり、桂氏からは「この若い参加者こそが、このシンポジウムの一番の収穫」という言葉が最初に述べられた。ディスカッションの話題の中心となったのは、それぞれの立場から見る木造を選択する意味と意義。

第1部で紹介された受賞作品の関係者からは、難易度の高い木造建築に挑む中で現場での対話がいかに重要であるか、またはその「せめぎあい」があるからこそ、結果と

して建築物の完成度が高まった背景が語られ、会場の共感を集めた。木材供給側からは、地域材を活用することが、単なる地産地消ではなく、効果的な持続可能な資源利用であることの視点が示され、今後は地域で育った木を適切に使い、植えて育てる循環を「見える化」する必要性が語られた。

受賞作品の中にはウッドショックの最中に施工が進められたケースもあり、木材の確保において地域との連携が奏功したことが共有された。ディスカッションを通じて浮かび上がったのは、建築技術だけの話ではなく、人と人、地域と産業をつなぐ総合的な営みに着目することが、今後の可能性を広げることだった。限られた時間の中で開催されたディスカッションは、熱を帯びた話が繰り広げられ、今後の県産材活用の大きなヒントが与えられた。



### 参加者 Comment



福岡大学工学部社会デザイン学科

湯木 将さん

建築を学ぶ中で、雑誌をきっかけにくまもとアートポリスの事業を知りました。初めて参加しましたが、木造建築の実例や計画などを通じて、自分も地域に関わる建築を手がけたいという思いがより強くなりました。中でも高森駅の事例に興味を惹かれました。

田中材木店  
内布 幸一郎さん

木材は扱いが難しい素材ですが、その特性を理解し、適材適所で使うことで可能性が広がることを改めて感じました。設計、施工、木材供給の現場それぞれの苦労や工夫を知ることができ、木を大切に使い続ける意義を再認識しました。



熊本工業高校建築科1年

大住 琉菜さん

木造建築にはデザインだけでなく、施工や材料供給まで多くの人が関わっていることを知りました。設計者と大工さんが話し合いながら建物をつくる過程が印象的で、もっと建築の世界を知りたいと思いました。

Check!

シンポジウムの詳細はこちらをチェック



# 令和2年7月豪雨 被災した公民館に替わる「みんなの家」

令和2年7月豪雨において、地域の住民が集う公民館も被災したことから、

日本財団の支援を受け、創造的復興に向けた地域づくりの拠点として、(一財)熊本県建築住宅センターとの協働により、地区住民が集い語らう場としての「みんなの家(公民館型)」を整備。

みんなの家は、くまもとアートポリス事業で設計者を選定し、地区住民と意見交換会やワークショップを行いながら整備している。

「神瀬のみんなの家」「中園のみんなの家」の完成により、八代市、人吉市、球磨村で進めてきた9棟の「みんなの家」整備が全て完了した。

**事業概要** 事業主体/一般財団法人熊本県建築住宅センター  
協働事業者/熊本県 資金助成/日本財団 事業協力/一般社団法人KKN(熊本工務店ネットワーク)

## 球磨村みんなの家

球磨村のみんなの家は、球磨川沿いの3つの地区に建ち、地形や風土と調和する屋根を与えることで建物を地域に馴染ませている。屋根のかたちをそのまま空間のかたちとすることで内部を特徴づけ、包容力のある地域共用の居間を設計した。

設計時の意見交換会の開催や、施工時の外壁の色決めや、塗装作業ワークショップの開催など、地域住民と一緒にやってきたのが特徴である。

### 設計者 Comment

設計室 渡瀬 正記氏+永吉 歩氏



私たちにとって球磨村は、2009年に完成したモクパンR2以来、馴染みのある地域です。地域の地形や風土、敷地の特徴や地区ごとの要望の違いに合わせて、集まりやすく居やすい場所をつくることを考えました。わかりやすい煉瓦色の勾配屋根、誰かが居ればわかる大きな開口、屋外との出入りが楽な濡れ縁のある深い軒、大勢で快適な高さのある木質の内部空間などが、球磨村のみんなの家の共通点です。ここに来れば誰かに会えるような地区共用の居間として使われることで、地区のコミュニティが補強されていくことを期待しています。

### Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック



### 起工式・設計説明会



地区主催による起工式が行われ、地区住民や工事関係者が参加した。併せて、設計者による設計内容の説明会を実施した。(7月16日、中園)

### 上棟式・餅投げ



棟上げの際には、地区主催による上棟式や餅投げが行われ、地区住民、設計者、施工者、KASEIの学生が参加した。(4月12日、神瀬)

### ワークショップ



地区の方々に愛着を持っていただくため、外壁塗装ワークショップを開催し、地区住民、設計者、施工者、KASEIの学生らが参加した。(4月24日、神瀬)

みんなで外壁塗装しました!



### 設計者から使い方の説明



落成式後に、設計者のお二人から地区の方へ建物の使い方の説明があった。(3月7日、中園)

### GO! くまモン★ナビ



県政テレビ「GO! くまモン★ナビ」でくまもとアートポリスの取組として「神瀬のみんなの家」が紹介された。

### 施工者 Comment

#### 渡のみんなの家

五瀬建築工房 五瀬 吉洋氏



施工方法を考えたり、大工の手加工があったり、面白くやりがいがあった。みんなの家に携わって、被災した地域の方を励ますことができ、意味のある仕事をさせてもらったと思う。地区の方たちも本当に良い方ばかりで、WSでも皆さん楽しそうに作業をされていたのが印象的だった。

#### 神瀬のみんなの家

出田建築工房 出田 宏行氏



施工は渡瀬さんと意見交換しながら進めたので、スムーズだった。地区が復興の集いで地区のこれからを考えていて、設計時も具体的な使う場面を考えていたり、復興を頑張られている地区という印象。建物が完成し、地区がよく使っていて、地区の復興に携われて良かった。

#### 中園のみんなの家

山田工業 山田 竜也氏



架構は設計者と丁寧に打合せをして納まりの調整をした。渡瀬さんは現場第一で考えてくれたので、疑問点や提案と一緒に考えて工事を進めることができた。みんなの家は、地区の方との対話を重ねてできた「地域の拠点」。地区の方にたくさん使ってもらいたい。

## 神瀬のみんなの家

■ 設計者/渡瀬正記+永吉歩(設計室) 施工者/出田建築工房



### 地域住民 Comment



神瀬地区  
岩崎 哲秀さん

今回、日本財団さんにみんなの家を作っていただき、本当に感謝している。このみんなの家を中心に、地域コミュニティの再生を図っていきたい。やはり、よりどころというのは、何よりも大切な存在。

## 中園のみんなの家

■ 設計者/渡瀬正記+永吉歩(設計室) 施工者/山田工業



### 地域住民 Comment



中園地区  
永椎 三郎さん

関係者の皆さんの支援によりみんなの家が完成し地区住民一同感謝に堪えない。中園ではコミュニティ活動が活発に行われてきたので、今後みんなの家で地域の交流が益々盛んになると確信している。

## KASEIプロジェクト 九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト

### 球磨村中園のみんなの家 落成 球磨村みんなの家に家具、花壇を贈呈



九州山口の建築系大学の学生や教員が参加し、仮設住宅等の住環境改善に取り組むKASEI(かせい)プロジェクト。神瀬では10月に家具コンペティションを開催し、神瀬地区の方の意見を聞きながら案をブラッシュアップ。家具を一緒に制作し地区へ寄贈した。中園では、地区の方と意見交換しながら制作した花壇が作成後寄贈される。

## 八代産「い草畳」を寄贈



令和2年7月豪雨で被災した公民館に替わるみんなの家9棟には、仮設団地内の集会施設「みんなの家」に引き続き、熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会、熊本県い業生産販売振興協会から置き畳(170枚)と敷き畳(10畳)が贈られた。

2025.11.9 sun

# こども建築塾2025 記憶をカタチに のこそう

開催場所：高橋酒造田野蒸溜所・交流施設

講師：平瀬有人・平瀬祐子/yHa architects



## 小学校だった頃の面影を探して、新しい記憶を残すワークショップ

高橋酒造田野蒸溜所・交流施設の完成見学会と同日に開催されたこども建築塾では、「記憶をカタチにのこそう」をテーマにした2つのワークショップを実施。公募で集まった県内の16名の小学生が参加した。まず、設計を担当した[yHa architects]の平瀬有人氏と平瀬祐子氏から、蒸溜所・交流施設に小学校の面影が残されていることの説明があり、その面影を探ることから始まった。こどもたちは施設内を探索し、放送用のスピーカーや教室の黒板や廊下の蛇口、体育館の校歌木板などほぼ全ての面影を探し出すことに成功した。続いて、田野地区で採取された葉っぱに絵の具を塗り、樽にスタンプする作業に挑戦。こどもたちは葉っぱの形や絵の具の色の選び方を工夫しながら樽をカラフルに彩った。完成した樽は新しい記憶として今後も蒸溜所内に展示される。最後に20歳になったら蒸溜所での試飲チケットとして使える「はっぱスタンプのラミネートカード」を記念品として制作し、笑顔いっぱいでの締めくりとなった。

### 参加者 Comment



#### 井上 幹太さん

毎日小学校に通っているのですが、田野小学校の面影を探すのは簡単でした。体育館はかいだこのない匂いがして、ウイスキーの匂いなのかなあと思いました。記念品のラミネートカードは20歳になるまであと10年間大切に取っておこうと思います。



#### 永村 真子さん

田野小学校ではお酒を造っているのですが、私が通っている小学校とは違う匂いでした。こんな匂いがあったんだよと友達に早く話したいです。葉っぱスタンプを押すのはちょっと難しかったけど、みんなと一緒にできて楽しかったです。



#### 永村 幸希さん

ウイスキーを作る建物は僕が通っている小学校の体育館にあるステージの天井に似ている部分があったので、もとは体育館だったとすぐに分かりました。でも、体育館でお酒を作っているなんて不思議です。完成したら家族で遊びに来たいです。

### 講師 Comment

yHa architects

平瀬 有人氏・平瀬 祐子氏



高橋酒造田野蒸溜所・交流施設は小学校をコンバージョンした施設です。今回のワークショップでは、小学生たちと一緒に敷地内に残る“記憶”を迎えることができました。建築物の改修には伝統を次世代につなげる責任が伴います。張り切った様子で施設内を歩き回る子どもたちの姿を見て、このワークショップを通じて建築やデザインの楽しさを少しは伝えられたのではと感じました。

### Check!

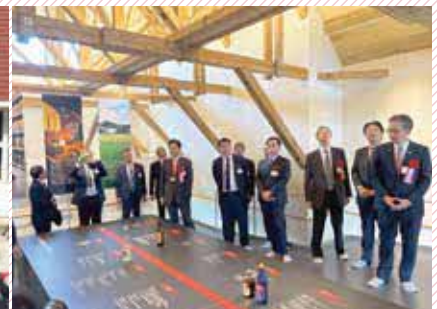
プロジェクトの詳細はこちらをチェック



2025.10.16 thu

## 関係者による 開所式が 開催されました!

高橋酒造株式会社主催による開所式が開催され、設計を担当した平瀬有人氏と平瀬祐子氏(yHa architects)の解説による内覧会も行われた。



2025.11.9 sun

# 高橋酒造田野蒸溜所・交流施設完成見学会

開催場所：高橋酒造田野蒸溜所・交流施設

## 事業概要

建設地/人吉市田野町3316-4  
事業主体/高橋酒造株式会社  
改修規模/約1,300㎡(増築約400㎡)  
1階:約850㎡、2階約450㎡  
事業内容/旧田野小学校校舎等を蒸溜所、交流施設に改修



## 地域で愛された小学校の記憶を残したウイスキー蒸溜所

球磨焼酎で知られる老舗酒造メーカーの「高橋酒造株式会社」が新たに手掛けるウイスキー蒸溜所・交流施設が完成し、開所を記念した見学会に県内外から建築関係者や学生など約80名が参加した。設計は[yHa architects]の平瀬有人氏・祐子氏が担当。既存の建物を活かしたコンバージョンにより、周辺の自然景観と調和した空間へと再生された。参加者は平瀬氏の案内のもと、施設の内外を歩いて見学。一般公開は2026年の初夏、蒸溜所初となるシングルモルトウイスキーは2027年以降の発売を予定している。

### 参加者 Comment



株式会社東条設計  
吉丸 貴一郎さん

蒸溜所と交流施設という2つの機能を持つ建物にも関わらずシンプルな造りになっており、よくよく考え抜かれたスマートな設計が印象的でした。また、周囲の美しい景観を最大限に生かすための効果的なデザインにも魅力を感じました。



第一工科大学建築デザイン学科4年  
船迫 淳さん

建築家の同行のもと、現地で説明を受けながら見学でき、実地ならではの学びが多くありました。最小限かつ最大限に効果的な設計をされたのだと理解できる設計・建築のポイントを、自分の目で確認することができる貴重な機会でした。



### 高橋酒造 Comment



高橋酒造株式会社 常務取締役  
高橋 良輔氏

田野蒸溜所は製造拠点としてだけでなく、見学・交流を通じて地域と人々を結ぶ新たな観光拠点となれることを目指しています。ウイスキーの蒸溜所としても合理的な建築物となっており、この施設でなら田野という土地のダイナミックな自然景観を味に映し出すシングルモルトウイスキーを作ることができると期待しています。

## 出前講座

2026年1月15日に、球磨工業高校建築学科の2年生に、完成したプロジェクト「高橋酒造田野蒸溜所・交流施設」の現地見学を開催した。

その他、県内の高校生を対象とし、くまもとアートポリスの取り組みを紹介する出前講座を実施した。



施設見学(高橋酒造田野蒸溜所・交流施設)



出前講座(熊本学園大学附属高等学校)

## On going

# 相良村川辺川魅力創造事業・交流拠点施設



事業概要 建設地/球磨郡相良村川辺川地区(廻り観音周辺)  
事業主体/相良村  
規模・構造/400㎡・木造 事業内容/交流拠点施設  
設計者/本岡伊藤・赤熊・CAMPUS設計共同体+産統設計



さがら産業文化祭での模型展示  
(令和7年10月26日)

令和2年7月豪雨からの復興を後押しする地域活性化事業として川辺川のみならず相良村の魅力を発信し、村内外の人々が交流できる拠点施設の整備が、くまもとアートポリス121番目のプロジェクトとして進められている。

設計者は、「本岡伊藤・赤熊・CAMPUS設計共同体+産統設計」の設計チームであり、交流拠点施設だけでなく、護岸整備や鮎や名の整備、修景整備など、周辺環境の整備にも支援・協力している。また、国土交通省が進める「川辺川アカデミア(川辺川ならではの環境を活かして、ソフト事業とハード事業の両面から、持続的に取り組む活動)」とも連携し取り組んでいる。交流拠点施設は、令和8年1月に建築工事に着手し、令和8年秋頃の完成を目指している。

## 第29回 くまもとアートポリス推進賞 受賞作品決定!

2025年度の推進賞には、30件の応募作品があり、機能面やデザインが特に優れている7作品が選ばれ、2026年1月28日に木村知事出席のもと、表彰式が開催された。



詳細はこちらを  
チェック!



推進賞

阿蘇神社御札所  
阿蘇市



推進賞

甲佐町起業等応援施設 MEBKAS  
上益城郡甲佐町



推進賞

菊南の住宅  
熊本市北区



推進賞

ペインターハウス  
熊本市北区



推進賞選賞

デイセンターCasa昭和町  
阿蘇郡高森町



推進賞選賞

須屋の家  
合志市



推進賞選賞

熊本第一信用金庫 山鹿来民支店  
山鹿市

## 国内外から多くの視察見学者が来熊

近年、500名を超える視察者を受け入れている。  
2025年度は、海外から約150名を含め約700名の学生や建築団体の視察を受け入れた。

### 草地畜産研究所畜舎の設計者 トム・ヘネガン氏が来熊

4月16日、トム・ヘネガン氏が共同設計者の桜樹会・古川建築事務所スタッフと改修設計の打合せを兼ねて熊本に来訪された。トム氏から「とてもきれいに管理されていて嬉しい」と発言があった。



研究所の方々と、中央の青い服がトム・ヘネガン氏

### JIA主催講演会、 見学会が熊本で開催

10月18日、日本建築家協会(JIA)主催により、熊本地震震災ミュージアムKIOKUにおいて設計者の百田有希氏を講師に迎え、講演会と見学会が開催された。



一番右が百田氏

## プロジェクト表彰

多くのアートポリスのプロジェクトが表彰されています。  
(令和7年度の主な受賞)

- 南阿蘇鉄道高森駅・交流施設
  - ・令和7年度 木材利用推進コンクール(優良施設部門・優秀賞)
  - ・日本建築学会九州支部2025年度「建築九州賞(作品賞)」
- 熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設(KIOKU)
  - ・2025日本建築学会作品選奨受賞
- エバーフィールド木材加工場
  - ・第28回木材活用コンクール(最優秀賞・農林水産大臣賞)
  - ・ウッドデザイン賞2025(最優秀賞・国土交通大臣賞)
  - ・令和7年度 木材利用推進コンクール(優良施設部門・林野庁長官賞)
- 高橋酒造田野蒸溜所・交流施設
  - ・日本建築学会九州支部2025年度「建築九州賞(作品賞)」

2025.11.1 ~ 2026.1.25

## 磯崎新「群島としての建築」 アートポリスを紹介

磯崎新氏の回顧展が水戸芸術館(茨城県)にて開催。初代KAPコミッショナーであることから、くまもとアートポリスについて紹介された。



くまもと  
アートポリス

KUMAMOTO  
ART POLIS

発行

くまもとアートポリス事務局

熊本県土木部建築住宅局建築課内

〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1 TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820

e-mail kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

発行者:熊本県  
所属:建築課  
発行年度:令和7年度  
(2025年度)